

## 1. 岡山市の現状について

- 人口 → 令和2年度をピークに人口減少期に突入することが見込まれている
- 令和2年度岡山市市民意識調査 → ①地域活動に参加している人が少ない、②地域活動に参加している若者が少ない
- NPO法人数 → 政令指定都市比較で、法人数が多い
- 安全・安心ネットワーク → ①活動するメンバーが高齢化している、②若い世代の参加が少ない

## 2. 現計画の評価

### 【岡山市協働推進計画の基本方針 成果指標】

指標名	当初値 (H27)	現状値 (R1)		目標値 (R2)	状況
		単年度	累計		
地域活動への市民の参加割合	39.9%	45.3%		55%	上昇
「ボランティア・NPO・市民活動の支援」の満足度	13.7%	24.3%		20%	上昇 (目標達成)
協働による取組に向けたマッチング件数	26件	単年度 19件	累計 118件	累計 40件	上昇 (目標達成)
協働による取組に向けたマッチングの結果、実際 の取組につながった件数	9件	単年度 9件	累計 35件	累計 20件	上昇 (目標達成)
企業、NPO法人等が参加した安全・安心 ネットワーク数	23件	40件		50件	上昇
市民協働推進ポータルサイト「つながる 協働ひろば」への岡山市の課題に 関連する情報の掲載件数	0件	単年度 6件	累計 19件	累計 20件	上昇
市民協働推進モデル事業の評価（100点満 点中80点以上の割合）	42%	16%		100%	下降
各課の協働事業の自己評価（100点満 点中80点以上の割合）	－	88.9%		100%	上昇
優れた取組の表彰の場（市民協働フォー ラム）の参加者数	－	単年度 288人	累計 980人	累計 150人	上昇 (目標達成)

# 第2次岡山市協働推進計画（仮称）の概要

【岡山市協働推進委員会の中間評価（令和元年10月）】

社会課題解決を目指す岡山市の取組は着実に広がってきた。今後は、取り組むべき重点項目を定め、より効率的な協働を推進していくことが必要。以下4点を市へ意見提出。

## 1. 柔軟なプランの構築

- 社会情勢や市の施策の方向性の変化に対応できよう、計画に柔軟性をもたせる

## 2. 新しい担い手の発掘・育成

- 岡山市の協働はNPO法人をはじめとする市民団体が中心であり、新たな担い手や担い手同士の協働が必要
- 持続可能な岡山のまちづくりを目指すには、若者が地域づくりの当事者として活動することの意義を実感できる取組が求められる
- 担い手同士の協働を促すためには、地域組織の担い手に働きかけなければならない

## 3. コーディネート能力の向上

- 課題解決能力を高めるために、異なる分野で活動する主体を繋げるコーディネート力の向上が必要。

## 4. 協働の基本原則に基づいた責任ある協働

- 岡山市協働のまちづくり条例第4条に基づく持続可能なまちづくりに向けた取組

## 第2次岡山市協働推進計画（仮称）の概要

### 【市民協働フォーラムでの意見】

- 5グループに分かれて、現計画の評価と新たな計画に向けたワークショップを実施
- 数字には表れにくい定性的な評価と、新たな計画の優先順位を確認

現計画の基本方針ごとに、5年間での生活の変化やエピソードでの評価。

(1)～(4)で「5年間でよくなった」という評価が一番多く、(5)で「5年間でかわらない」という評価が一番多かった。

(単位：コメント件数)

基本方針		5年間でよくなった	5年間でかわらない	5年間でわるくなった
(1)	人材、団体を育成し、活動を支援します。	15	11	8
(2)	多様な主体のつながりの場を創出します。	13	2	4
(3)	情報の発信と共有を進めます。	6	5	2
(4)	市役所の協働化を進めます。	10	8	6
(5)	成果を共有し、協働意識の醸成を進めます。	4	5	3
その他		0	1	5
合計		48	32	28
割合		44%	30%	26%

基本方針の重要性、満足度に関する順位付けを行い、優先順位（重要度が高く、満足度が低い）を確認。

(1)と(2)が優先順位が高く、(5)が優先順位が低かった。

(単位：件数)

基本方針		重要度		満足度	
		高い	低い	高い	低い
(1)	人材、団体を育成し、活動を支援します。	5	0	1	4
(2)	多様な主体のつながりの場を創出します。	4	1	1	4
(3)	情報の発信と共有を進めます。	3	2	1	4
(4)	市役所の協働化を進めます。	3	2	0	5
(5)	成果を共有し、協働意識の醸成を進めます。	2	3	1	4

## 第2次岡山市協働推進計画（仮称）の策定について

### 3. 課題

- ①地域活動の担い手の育成と活動への支援  
地域活動に参加していない人の割合が半数を超えており、特に10歳代、20歳代の若者の参加しない人の割合が極端に高い
- ②市民活動・地域活動のさらなる推進と協働する場の創出  
市民活動団体等の育成とともに、その活動がさらに充実・発展していくためには、他団体との協働が必要不可欠。協働の場を提供と、コーディネート機能の向上が必要
- ③協働の取組の情報発信による理解促進と活動への参加促進  
市民活動に参加していない人たちの中には、参加するきっかけがなく、地域活動に関する情報がない人が一定程度存在している

#### 【踏まえるべき視点】

- 協働は、SDGs 17「パートナーシップで目標を達成しよう」と関係が深く、SDGsの掲げる目標の達成に貢献する必要がある
- 公民館を拠点とした地域コミュニティにおけるESD活動の推進等、多様な主体が連携し、地域全体でESD推進の取組を進めていく必要がある
- 岡山市協働のまちづくり条例第4条に掲げる協働の基本原則に基づき、責任ある協働を推進する必要がある

### 4. 目的と方向性

- 現計画での取組は、指標による数値や岡山市協働推進委員会による中間評価から、概ね順調
- 今後は、基本的な方向性は維持させつつ、課題に対応した取組の重点化を行い、さらなる充実・拡充を図っていく
- 本計画は、「岡山市協働のまちづくり条例」第14条に基づき策定するものであることから、前計画と同様に、本条例の目的「多様な主体が協働して地域の社会課題解決の取組を行い、豊かで活力ある持続可能な地域社会を実現します」を本計画の目的とする

# 第2次岡山市協働推進計画（仮称）の概要

## 第2次岡山市協働推進計画 体系図（案）

### 目的

豊かで活力ある持続可能な地域社会を実現します。  
多様な主体が協働して地域の社会課題解決の取組を行い、

### 基本方針

【基本方針1】  
協働の主体となる新たな担い手を育てるとともに、その活動を支援します

【基本方針2】  
活動団体の取組を活性化させ、多様な主体のつながりを創出します

【基本方針3】  
協働の取組を広く情報発信し、市民活動・地域活動が行いやすい環境をつくります

### 基本施策

【基本施策1】  
1 活動の裾野を広げる支援  
2 若者の人材育成

【成果指標】（案）  
・地域への市民の参加割合  
・若者（20歳代）の参加割合

【基本施策2】  
1 市民活動団体等への支援  
2 協働するための環境の提供  
3 市役所の協働化の推進

【成果指標】（案）  
・ESD・市民協働推進センターの利用者数  
・市民協働推進事業の事業継続

【基本施策3】  
1 協働に関する普及・啓発  
2 市民活動団体等や優れた取組の情報発信

【成果指標】（案）  
・SNSのフォロワー数  
・市民協働に関する市ホームページの閲覧数